

## 29pYW-3 我が国の大学における核融合研究に関する資料調査

大同工大工，核融合科学研<sup>A</sup>，名大名誉教授<sup>B</sup>

藤田順治，木村一枝<sup>A</sup>，難波忠清<sup>A</sup>，大林治夫<sup>B</sup>，寺嶋由之介<sup>B</sup>

Archival studies on the nuclear fusion research at universities in Japan

Daido Inst. Technol., Nat'l Inst. Fusion Sci.<sup>A</sup>, Nagoya Univ.<sup>B</sup>

Junji Fujita, Kazue Kimura<sup>A</sup>, Chusei Namba<sup>A</sup>,

Haruo Obayashi<sup>B</sup>, Yoshinosuke Terashima<sup>B</sup>

### 1. 研究の背景と目的

核融合研究開発は 1950 年代なかばに着手された新しい研究分野であり，その歴史は比較的浅い．その研究の進展はあまりにも急速で，研究開発に関する歴史的な資料を整理し，過去を振り返る暇を与えなかった．我が国の核融合研究の進展を見れば，大学における研究が大きな役割を果たしてきたので，そこでのテーマの取り上げ方とその進め方，研究開発の歩みが，必ずや研究の対象となるであろう．そこで，過去の事例を正しく評価し，誰もが参照し得る公正な資料を整理しておくことが必要かつ緊急の課題となる．

本研究の目的は，このような背景のもとに，現在核融合科学研究所に保管されている我が国の大学における核融合研究発展に関する資料を中心に，全国の大学関係の歴史的資料として体系的に整理し，索引を作成して，科学技術史研究分野の研究者を含め，広くこれらの資料に関心をもつ研究者に公開，閲覧に供し得るよう準備を行うことにある．

### 2. 研究の内容と現状

上記の研究目的に沿って，第三者が内容について検索しやすい形とすることを念頭に，核融合科学研究所に保管されている資料を再点検し，内容を確認して，目録を作成している．データベース化は，検討の結果，Mac，Windows とともに利用可能であるファイルメーカー Pro を用いることとし，資料 1 件毎に原簿を作成している．また，この原簿に記載する項目のうち，主要なものを一覧表形式でも表示できるようにしている．

### 3. 今後の問題点

核融合研究が担っている未来のエネルギー研究という課題とその重要性を考えると，この研究成果は核融合研究者，科学史研究者はもとより，広く公に供される必要がある．また，情報がネットで公開される時代になり，その時々資料の収集は便利になったように思われるが，反面巨大科学としての核融合研究の史実をたどるのに必要かつ十分な資料をどのように収集保管していくかという新たな問題も生じている．さらに，今後必ず増加してくる資料を恒常的に整理する機関と組織を考えることも必要である．